

# Topic 31

## 米国ペンシルバニア州の VCP (土地リサイクルプログラム)

- 1) こんなところです
- 2) ペンシルバニア州の土地リサイクルプログラム
- 3) ブラウンフィールドアクションチーム

---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週はペンシルバニア州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

### 1) こんなところです

ペンシルバニア州は、ニューヨーク州の南に位置する横長長方形の州です。本州は、1787年12月12日、2番目に米国へ加入しました。州の総人口は約1,240万人、人口密度は約100人/km<sup>2</sup>です。ペンシルバニアとはラテン語で「ペンの森」という意味で、州創立者のウィリアム・ペンが実父のペン卿に敬意を示すためにこの様に名づけられたと言われています。その名の通り、ペンシルバニアは美しい森、山、渓谷に恵まれており、州内外から観光客が保養に訪れます。

一方で、フィラデルフィアやピッツバーグといった米国有数の大都市が存在しています。フィラデルフィアは州の最大都市であり、独立宣言や合衆国憲法が起草された場所として知られており、自由の鐘や憲法記念館が観光名所になっています。もう1つの主要都市ピッツバーグは、かつて「アイアン・シティー」とニックネームがつけられるほど製鉄業が発達しました。米国の鉄鋼会社 U.S. Steel 社が本社を構えていた場所です。第二次産業の衰退後には、地域再開発が実施され、現在この地域は学術・医療機関のまちとして市民に愛されているようです。まさに工場跡地の再開発、そしてコミュニティー再活性の成功モデルです。

### 2) ペンシルバニア州の土地リサイクルプログラム(Land Recycling Program)

ペンシルバニア州は、ブラウンフィールド再開発先進州といえるでしょう。

1990年代前半には、ブラウンフィールドは人々にけむたがられ、開発対象となる土地は専ら郊外のグリーンフィールドでした。しかし、州はこのトレンドを変えるべく積極的に取り組みを始め、1995年には以下の3つの法律を制定しました。

- ・ 土地リサイクル、及び環境修復標準法
- ・ 経済開発局・受託者・レンダーの環境負債保護法
- ・ 工業サイトアセスメント法

これら3つの法律をベースに、汚染地の自主浄化をサポートする「土地リサイクルプログラム」が開発され、州の環境保護局により運営が開始されたのです。昨年で10周年をむかえた同プロ

グラムは、1000 ヶ所以上の土地の浄化に貢献し、現在、米国を代表する VCP モデルと賞賛されています。

この州は、プログラム実施に関する年次報告書を出版しているのですが、その中でプログラムの展開状況、州の環境保護局の今後の課題、ブラウンフィールド サイト インベントリー等の情報を包括的にまとめています。経済開発局、レンダー、弁護士、鑑定士、開発者、環境コンサルタントと協力することによって、既存インフラを利用して再開発を行うことが、グリーンフィールド開発よりも費用負担が少なくなる状況を作り上げていくことに成功しているようです。例えば、Todd さんが指摘した再開発の壁には「知恵を集結できない（専門家が集まると意見がまとまらない）」という項目がありました。おそらく同州でも、同じような壁にぶちあたったことと思いますが、そのあたりを比較的スマートに克服できている感じがします。

### 3) ブラウンフィールドアクションチーム

この州の土地リサイクリングプログラムには「ブラウンフィールド アクション チーム」という専門部隊が設置されています。このチームは土地リサイクリングプログラムを利用するときの窓口になり、浄化や土地再利用のための調整やファシリテーションをおこなう地域ディレクターを任命します。

昨年のブラウンフィールド会議でアクションチームディレクターの Jill さんからお話を聞く機会がありました。「今までの努力が実り、全米のモデルとも賞賛されるまでに至りましたが、まだ改善すべき点が幾つか列挙されています。環境責任の免除制度を強化させるために努力していく必要があります。」とおっしゃっておられました。前向きで謙虚な態度に頭が下がりました。

来週は、Jill さんが指摘していた環境責任の免除についてと、同プログラムの財政インセンティブにフォーカスして環境メルマをお送りいたします。お楽しみに。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

Nickname -- 「Keystone State (キーストーンは要石といい、アーチ型の石橋の最上部にある楔形の石のことを指します。)」 「石油の州」 「石炭の州」 「鉄の州」

事例紹介 -Bethlehem (ベスレヘム) : アメリカ大陸横断鉄道が完成した 1869 年を 12 年さかのぼる 1857 年、この町に鉄道レールを生産する小さな会社が産声を上げました。そして 1904 年にこの鉄鋼プラントはベスレヘムスチール社として大企業への歩みをはじめ、戦時中の武器、戦後の建設資材を製造・提供し、アメリカ産業の発展に大きな貢献をしてきたといわれます。し

かしながら、大きくなりすぎた企業を待っていたのは工場閉鎖と企業売却。ベスレヘムの工場も1995年に閉鎖されました。もともと、アメリカの廃棄物処理法ともいえるRCRA法に基づいて、廃棄物の管理は行なっていたようですが、その法律ができたのは1976年、つまり100年以上の間は十分な注意はなされぬままだったわけです。現在、この工場の跡地にはスミソニアン産業史博物館 (<http://www.nmih.org/>) が建っていますが、EPAや州環境部局、現土地所有者のブラウンフィールド推進の熱意と努力が、かつての産業のまちをよみがえらせたと言えるでしょう。  
([http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss\\_beth.pdf](http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss_beth.pdf))